

着任のあいさつ

ヒューストン日本語補習校 小澤啓行

ヒューストンにお住まいの皆さま、初めまして。このたび4月からヒューストン日本語補習校に教頭として勤務することになりました、小澤啓行(おざわひろゆき)と申します。福島県から参りました。どうぞよろしくお願いいたします。



皆さまの中にはヒューストンを自ら選んでお住まいになっている方も多くいらっしゃると思いますが、私の場合は文部科学省から派遣されるため、勤務場所の決定はまさに運命でした。ヒューストンと知ったとき、すぐに地図で位置を調べました。「南部テキサス州にあるぞ。一年中暖かいのかな…。雪は降らないのかな?ということは冬服は不要?海は近いのかな?公共交通機関はどうなっているのだろうか?自動車は必要なのだろうか?…?車は右、人は左が大丈夫かな…。休日の過ごし方はどうすればいいのだろうか?日系のスーパーなどはあるのかな?病院はどうなっているのだろうか?おっ!ヒューストンには日本国の総領事館があるぞ。これは安心!」などと頭の中を駆け巡り、大きなワクワク感と多少の不安感が入り混じる状態で今に至ります。

さて、全世界各地にある補習校は「保護者の皆さまのお力添えをいただいて運営している」と考えています。日本国内の学校の場合は、月～金が児童生徒の登校日であることから、ある程度は教員の力で学校運営が行われ、状況によって保護者の皆さまのお力添えもいただく、という現状です。



一方、本校のような土曜補習校の学校運営では、校長先生や現地の先生方の献身的な教育活動に加えて、運営委員会の皆さまのお力添えと保護者様のご協力が大きな意味を持つものと推察されます。ラグビーに例えて言うなら、メンバーの数と個性が多様であればあるほど、強靱なスクラムを組めるのではと思います。

私も微力ではありますが本校児童生徒のためにそのスクラムの一員として尽力してまいります。これからどうぞよろしくお願いいたします。



ヒューストン日本語補習校 入園・入学式

4月6日、第53回ヒューストン日本語補習校入園・入学式が執り行われました。子供たちの新たな旅立ちを祝福するような晴れやかな天気にも恵まれ、幼稚園54名、小学部66名、中学部41名、高等部19名の輝く姿が、ここ補習校に集まりました。

中等部・高等部の式は、生徒たちの堂々とした入場で始まりました。新入生・在校生ともに素晴らしいスピーチを披露し、自分の同年時代と比べてその成熟度に驚かされました。生徒たちの輝く未来が、この瞬間からうかがえます。

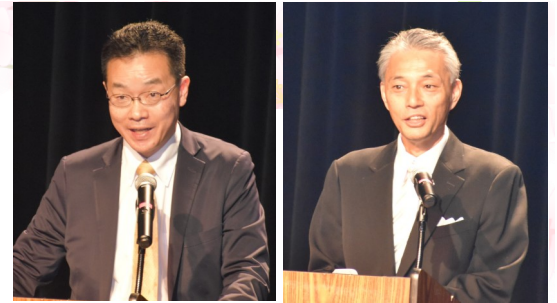
幼稚園・小学部の式では、学校生活への初めての一步を踏み出した子供たちの初々しい姿が印象的でした。担任の先生が一人一人の名前を読み上げると、初めの戸惑いから次第に明るい返事へと変わる様子が、園児・児童たちの適応力の高さを物語っています。今後の補習校での活発な学びへの期待が膨らみます。

総領事代理齋藤様から「現地校と補習校の両立は大変だが、貴重な経験であり、将来必ず役に立つ。知識や友達の輪を広げ、学校生活を楽しんで欲しい。」とのお言葉を頂きました。

また、岡林校長先生から「どんな環境や出会いも必ず意味がある。前向きな気持ちで新生活を楽しんで欲しい。」とのお言葉がありました。

新入生の皆様、保護者の皆様、入園・入学、おめでとうございます。補習校で仲間と共に楽しく学び、大きく成長されることを心より期待しています。

(ヒューストン日本語補習校運営委員 鶴飼博哉)



▲総領事代理齋藤様祝辞(左) 岡林校長先生式辞(右)



▲中学部歓迎の言葉



▲中学部新入生の言葉



▲小学部新入生の言葉



▲小学部歓迎の言葉